

ヤマトホラヒメグモ (*Nesticus yamato* YAGINUMA) の新しい分布地

野戸 章・西川喜朗

日本のホラヒメグモについては、八木沼(1979)の最大成があり、その後も詳細な検討が加えられている。私達は洞穴性クモ類について調査を続けているが、最近、ヤマトホラヒメグモを新たに2ヶ所で見出した。本種の既産地は、奈良県吉野郡の柏木洞穴群、和歌山県東牟婁郡の砂岩洞(浜氏穴)と廢坑、および三重県渡会郡の鍾乳洞(阿曾の風穴)等であり、近畿地方のホラヒメグモとしては広大な分布域を有している。

今回の採集地は、昭和57年5月24日、奈良県吉野郡上北山村伯母峯跡西南西、伯母峯(Obamine)トンネル内および昭和57年6月13日、和歌山県那賀郡粉河町、竜門山の風穴(Ryūmonzan no kaza-ana)で、各々早成体12頭、成体1頭および早成体9頭、成体2頭を得た。

伯母峯トンネル(alt. 950m)は、既産地、和佐又ロー大普賢(洞外)に近く、トンネル内は大台ヶ原有料道路建設の際に廢棄したと思われる土砂が山になって違らなっているが、トンネル自体は閉塞していない。ここで得た本種は、洞外産であると思われる。

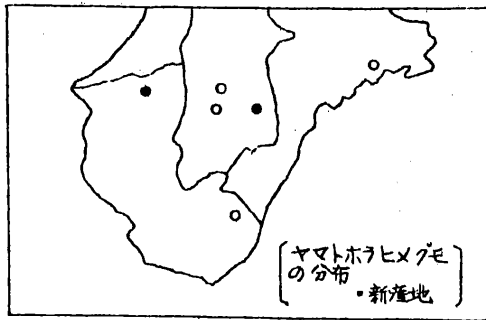
竜門山の風穴は、竜門山中央登山道8合目(alt. 650m)に開口する蛇紋岩洞で、7mのたて穴であり、最深部は8°Cの低温である。洞内は、昔、まゆの保存に使われていたため廢木が多い(那賀郡誌)。洞口は、もう1ヶ所あったと記録されているが、現在は荷れっており、入洞できない。

竜門山の風穴は、分布の西限になるが、本種の分布はさらに広がるものと思われる。

採集に御協力頂いた上野俊一博士(国立科学博物館)、田中昭太郎氏(白浜町)、武藤寛治氏(追手門学院大学学生)に感謝する。

記録

伯母峯トンネル: ヤマトホラヒメグモ, 早成12, 成1; ナミハグモ一種1♀, 1♂; ガロアムシ, 1♂成, 竜門山の風穴: ヤマトホラヒメグモ, 早成9, 成2; ナミハグモ一種, 2♀, 4♀; ヤチグモ一種, 1♀; ニホンアカザトウムシ, 2y; メクラツチカニムシ(?), 1ex; ガロアムシ, 2y; プチサンショウウオ, 7ex.



文献: 八木沼, 1979. 追大文紀(13), 255~287.

仲谷謙, 1981. 私達の理科環境 和歌山県那賀郡篇. pp. 26-30.

北摂山地 中山のクモ

清水 裕行

社内ハイキングの片手間に採集したクモを報告する。

(採集年月日) '82年7月10日 (採集地) 中山(標高478m, 兵庫県宝塚市北部)

チリインウロウグモ, オダカグモ(♂), ヒメグモ, ムネグロサラグモ, アシナガサラグモ, ユノハマサラグモ, ザラアカムネグモ, コシロカネグモ, キハダエビグモ, セマルトラフカニグモ, マミジロハエトリ。

(注) オダカグモの雄は未発表であるが、腹部の形態、歩脚の刺等を雌と比較した結果本種と判断した。筆者は同様の標本を西宮市北山公園から得ている。六甲山からは日本産の *Chryso* が4種共みつかっているので、ヒシガタヒメグモの雄を採集できたら詳しい報告を出すつもりである。

近畿クモ情報 — 小学生兄妹がカトウツケオグモ採集

宝塚市中山五月台の四ノ宮靖大ちゃん(小5), 万里依ちゃん(小3) 兄妹は6月2日に自宅付近の長尾山でカトウツケオグモの雄を発見、現在飼育中です。ここからすぐ東にある花屋敷からはマメタイセキグモが発見されており、このあたりはどうやら珍種の産地のようです。(清水記)

秋季観察会のお知らせ

とき: 昭和57年9月12日(日) ところ: 岩湧山(イワウキヤマ) 参加費: 300円
スケジュール: 10:30 南海高野線天見駅集合、竹ノタワ峠で昼食、15:30 天見駅で解散
交通: 大阪方面より 南海ナンバ駅より高野線で高野山行(急行)で天見駅で下車。

所要時間 約40分(360円)

または、近鉄阿部野橋より近鉄長野線で、河内長野行で終点で高野線にのりかえ。

阿部野橋—河内長野(330円), 河内長野—天見(160円)

和歌山方面より、国鉄和歌山線橋本駅で南海高野線にのりかえ天見駅下車。

注意: 各自弁当持参のこと。小雨決行。

問い合わせ: 清水裕行 TEL. 0798-73-5936

八木沼研究室からの情報を「細蟹舎通信」としてすでに3回発行し、内容に関係ある方のみ発送していましたが、今回から本誌上に掲げます。

ムツバハエトリの学名について

ムツバハエトリの学名は *Boethus sexdentatus* YAGINUMA として使用されて来たが、この学名について二つの問題がある。

1. 属名 *Boethus* は THORELL (1878) 以来欧州の学者間でも使用され、PRÓSZYŃSKI も使用しているが、このほど *Boethus* はすでにハチに使用 (*Boethus* FOERSTER, 1868) されていることが九大平島博士のご指摘によりわかった。そのことについてはすでに STRAND が 1929 に指摘し、*Boethuole* と変更している。従ってムツバハエトリの学名は *Boethuola sexdentata* (YAGINUMA) となる。

2. イギリスの WANLESS 博士によれば、日本のムツバハエトリ (日本から誰かが送ったらしい) は *Boethus* から外し、新属とすべきことを提唱している。まだ正式の発表がないので学名を記すことはできないが、YAGINUMA をもじった綴りにしたいとのことである。しかし、*Boethus* が何かのシノニムにならない限り、どれかに *Boethuola* として残ることはいうまでもない。

ハチとクモとで *Boethus* がホモニム関係になるのであるが、BONNET (1955) は STRAND の記事を見た見解において、クモの方は *Baethus* であり、ハチの方は *Boëthus* で語源的にちがうから、*Boethus* は両立する旨記しているが、現在の命名規約によればいずれも *Boethus* となり、ホモニム関係になるのはやむを得ないであろう。

ご指摘を得た平島義宏博士・大熊千代子氏、

WANLESS 博士にお礼申し上げます。

文献: STRAND, E., 1929. Zool. and Palaeontol. Nomenclat. Notes. Acta Univ. Latvianensis. 20: 17; BONNET, P., 1955. Bibliographia Araneorum, 2 (1): 892-893.

東洋のユカタヤマシログモは *Scytodes thoracica* か?

—レヘティネン博士の疑問—

世界各地の *Scytodes thoracica* と同定されているクモを比較研究している LEHTINEN 博士は東洋のものは別種か別亜種ではないかとの疑問を持ち、関係方面に研究材料を求めている。成行きが注目される。

二人の中国クモ学者

研究のため来阪

白求恩医科大学の文在根氏は昭和56年12月から2年間の予定で横浜国大に留学中。57年7月5日から9月15日まで横浜国大派遣という形で追手門学院大学に留学、大学や八木沼宅の研究室で日夜奮闘されている。分類学の知識も深くすでにいくつかの新種発表がある。日本では誰くらいかな? 宿舎は追手門学院大学内のゲストハウス明德塾 (2LDKぐらい) で、自炊生活

武漢师范学院の趙敬創氏は昭和57年8月17日来阪、文氏とともに東亜蜘蛛学会第14回大会に出席講演される。専門は生態、とくに田畑の害虫の天敵としてのクモの研究。大会終了後は主な大学や試験場などを訪問される予定。9月7日まで大阪に滞在される。

関西クモ研究会会務報告

1982年度春季例会

〔日時〕 4月1日(日) 10:30~16:00 〔所〕 大阪市立自然史博物館

〔出席者〕 坂口佳史, 西川喜朗, 野戸章, 寺田孝重, 福本伸男, 座古禎三, 米田宏, 大仲政憲,
山本一幸, 寺田玉実, 加村隆英, 吉田真, 塀水有三, 田中稔積, 八木沼健夫, 渡辺好章,
清水裕行, 大崎茂芳

〔講演会〕

- 西川 喜朗 「ネパール探果紀行」 第2回ネパール調査の成果を一部紹介。
座古 禎三 「サラグモ科とコサラグモ科について」 両科の概要と飼育方法など。
田中 稔積 「日本のコモリグモの要点」 学位論文発表時の資料を用いて解説。
山本 一幸 「スジプトコモリグモの子守り行動とセアジアカムネグモの集団パルニング」
寺田 孝重 「茶園のクモ相研究の動向」 現在の研究状況を報告。
八木沼健夫 「クモ学講座(1) クモの系統と分類の問題点」 最近の諸学説の紹介。

〔総会〕 決議事項

1. 東亜蜘蛛学会々則改正に伴い, 会の名称を「東亜蜘蛛学会関西支部」から「関西クモ研究会」に変更する。
2. 会費は年1,000円とし, 改めて会員を募集する。
3. 4月の例会, 9月の観察会の通知は今後は会員のみに発送し, 参加費は年間会費とは別に徴収する。会員以外の臨時参加も認める。
4. 機関紙「くものいと」を年2回程度発行。関西地区以外の購読希望者には実費で提供。
5. 幹事は当面, 清水裕行1名とし, 事務所は清水宅(〒662, 西宮市吾楽園四番町12-20; TEL. 0798-73-5936)に置く。

〈 編集後記 〉 「くものいと」創刊号をお送りします。本誌には高度な論文だけでなく、一般向きの記事もどしどし入れて、バラエティのある内容をつくりたいと思います。ちょっとした報告、採集記録などもお寄せ下さい。原稿や問い合わせは事務所(会務報告参照)まで。次号のメ切は10月末日になります。岩湧山の観察会にもふるって御参加下さい。

幼児向け絵本 かかぐのともシリーズ 162号 9月号 「こがねぐも」
八木沼健夫博士監修, 甲斐信枝(京都市)作。数年にわたるコガネグモの観察結果をすばらしい絵によって紹介。科学的であり, しかも芸術性の高い作品である。福音館書店発行 250円